

南山介護上級試験範囲一覧		
第1分野	人材教育(2)	スタッフ養成の指導 新人教育の指導
第2分野	老人保健施設(2)	介護老人保健施設の人員、施設・設備並びに運営に関する基準の指導 入所、退所、通所時の対応指導
第3分野	在宅ケア支援機能(2)	在宅ケア支援促進の為のポイント指導 在宅ケア支援の具体的な方法の指導
第4分野	ケアプラン(3)	ケアプラン作成指導 ケアカンファレンス実施の指導
第5分野	リスクマネジメント(4)	リスクマネジメントの視点指導 事故発生時の対応と予防指導 身体拘束の問題の指導 転倒事故等の法的責任についての指導
第6分野	介護技術(5)	介護技術の指導・育成 痴呆対応介護指導・育成 残存機能維持の介護指導 家庭復帰の為の介護指導 具体的なリハビリ方法の理解
第7分野	リハビリ(5)	生活動作機能訓練指導 資格取得指導 レクリエーションリハビリの指導 痴呆性老人のリハビリ方法 関節可動域訓練
第8分野	居宅サービス(8)	医学的管理サービスの機能 訪問看護の機能 訪問介護の機能 訪問入浴介護の機能 地域リハビリテーションの機能 通所介護の機能 短期入所介護の機能 福祉用具貸与の機能

第1分野	人材育成
解説	痴呆性老人のケアは、一人ひとりの利用者様の様々な言動に直面することから始まり、その中から具体的な対応が求められる。又、体験したものを理論的に裏づけるためにむ、その生理学や病理学、心理学を学ぶことによって、提供されるケアの質は大きく向上する。痴呆性老人に関する講義も必要だが、その実情がどのようなものかは実際接してみることを読み取ることができる。又問題行動も、実際にどのように対応していくかはケアの経験の積み重ねから具体的な方法が導きだされる。そして、様々な問題行動に直面する事で、否応なしにその対応方法を身につ
問題	養成の基本的な考え方を述べよ。
解答	肌で感じるケアと裏づけられたケア
問題	養成の実際について述べよ
解答	専門的な知識の集積と学習会などへの積極的な活用

第2分野	老人保健施設
解説	介護老人保健施設を開設しようとするものは、厚生労働省令で定めるところにより、都道府県知事の許可を受けなければならない。介護老人保健施設は、解答でも挙げた施設運営についての重要事項に関する規定を定めておかなければならない。介護老人保健施設は、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行う事により、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るようにすることとともに、その者の居宅における生活への復帰を目指すものでなければならない。介護老人保健施設は、入所者の意思及び人格を尊重し、常に入所者の立場に立って介護保健施設サービスの提供に努めなければならない。介護老人保健施設は明るく、家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い市町村、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設その他の保険医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。又、信頼関係は施設側の日常のケアと相手の気持ちを受け止める姿勢から生まれてくる。そこで初めて家族にも心理的なゆとりが生まれインフォームド・コンセントによる双方の合意を見出す事ができる。
問題	介護老人保健施設は施設運営についての重要事項を述べよ
解答	1. 施設の目的及び運営の方針2. 従業者の職種、員数及び勤務の内容3. 入所定員4. 入所者に対する介護保険施設サービスの内容及び利用料及びその他の費用の額5. 施設の利用にあたっての留意事項6. 非常災害対策7. その他施設の運営に関する重要事項
問題	入所時から入所期間中の在宅療養へ向けた働きかけで大切なものとは何かを述べよ
解答	家族・本人との信頼関係の構築

第3分野	在宅ケア支援機能
解説	介護老人保健施設の理念、4つの機能と役割にもあるように、老人保健施設が果たす役割の一つは、利用者の家庭復帰と在宅ケア支援である。家庭復帰に積極的に取り組むのが当然と思いながらも実際には家庭復帰が困難結果が得られる。その意見を総合してみると、施設利用者の重度化、利用者から見た家庭復帰に対する経済的インセンティブの低下、利用者の長期入所に対する権利意識の高まり、デイケアやショートステイの使い勝手の問題、通減制廃止による施設側の経済的インセンティブの低下などが要因である。介護老人保健施設家庭復帰・在宅ケア支援の促進には、入所前から退所後までの継続した支援体制を確立すること、地域との対話が大切である。これからのサービスの利用者が多い施設ほど家庭復帰と在宅ケア支援が機能的に循環している。利用者・家族との信頼関係の構築が大切である。ここでいうリハビリは在宅生活を見越したものである。リハビリのゴールとそこに到達する機関を明確に設定し、本人・家族にもそのプログラムとプランについて同意を得る必要がある。在宅支援プログラムは、入所期間中の療養プログラムの延長線上にある。ケアマネジャーと施設との連携が上手にとれている施設ほど在宅ケア支援も的確に行われている。在宅ケアシステムを作る過程で人を配置する、育てる、責任を持たせることが大切である。
問題	在宅ケア支援促進の為にポイントを述べよ
解答	入所者や家族に介護老人保健施設の役割や機能を十分に説明し、理解してもらう。入所期間中から、在宅復帰を目指すということを高齢者や家族に意識づけて、その意思を高めるように心理的環境づくりを行う。家族とのつながりを重視し、家庭復帰実現に向けて、外泊の促進など積極的な働きかけを継続する。リハビリを充実してADLの拡大を図る。在宅ケアサービスを的確に提示して、在宅ケア支援のプラン作りやサービス提供者との連携・調整を積極的に図る。地域や関連諸機関との連携を強化し、退所後の生活に関連するフォローを充実していく。デイケア(通所リハビリテーション)やショートステイの使い勝手をよくして、高齢者本人や家族のニーズに合ったものにする。訪問系サービスを拡充する。
問題	在宅ケア支援の具体的方法を述べよ
解答	老人保健施設の役割・機能に関する地域への広報活動、入所時から入所期間中の在宅療養へ向けた本人・家族への継続的な働きかけと環境作り、リハビリを充実して、ADLの拡大を図る。在宅ケアサービスの的確な提示、在宅ケアプログラムの作成、サービス提供者・関係諸機関との連携、在宅生活に関するフォロー

第4分野	ケアプラン
解説	ケアマネジメントとは、ニーズに基づいて社会資源を活用・配分する一連の流れを意味しているため、本来は居宅サービスにおいて、使用されるべき言葉である。しかしながら、老人保健施設におけるケアプランは、施設内だけで完結的に処遇計画を立てるものではなく、退所後の居宅生活の継続を年頭において計画するからこそケアマネジメントが必要となる。つまり「計画・実施・評価」がこれに相当する。中でも中核となるものが課題分析と介護サービス計画が中核となり、これは、「要介護者等のニーズに適応したサービスを効果的・計画的に提供する観点から、介護サービス計画を作成して介護を給付する事を保険給付を行う上での基本とする」という考え方によるものである。ケアプランはわれわれスタッフだけではなく、利用者や家族との共同作業で作成されるものである。又、お互いの合意形成のためにケアカンファレンスを行うことが不可欠である。ケアカンファレンスでは、利用者の希望や家族の意見などをもとに、ケアに関わる専門職がそれぞれの視点から意見を述べ、情報を共有し合い、総合的に競技・検討を行い、ケアの必要性を検討する。そして、文書化されるケアプランは、分かりやすい表現で記載され、利用者・家族にも理解・納得されるものでなければならない。
問題	ケアマネジメントの一連の流れを述べよ
解答	1. 課題分析及び介護サービス計画作成 2. 介護サービスの仲介や実施 3. 継続的なサービスの管理や評価
問題	ケアカンファレンスを行うための要件を述べよ
解答	1. ケアに関わるすべての職種と利用者・家族の参加 2. 情報の共有化 3 ケアカンファレンスにおける役割(司会・記録など)の明確化 4. ケアカンファレンスの時間的管理: 5分から15分/件が望ましい

第5分野	リスクマネジメント
解説	利用者が一度でも転倒事故を引き起こすと、そのときは骨折につながらなかったとしても、動く事に過度の不安や恐怖感を抱き、ひいては生活意欲さえ失う事もある。したがって、事故に十分配慮しつつ利用者の残存能力を最大限に生かしながら、意義ある生活が過ごせるよう援助することが老人保健施設におけるケアの基本となる。事故防止は、施設自体と施設に所属する全職員が事故防止の重要性を認識し、組織全体で防止体制の確立を図ることが課題となる。このため各施設においては、事故防止のための対策規定の策定が必要となる。規定には解答の事項に関する内容が含まれていなければならない。最初は一時的として始めた身体拘束が時間の経過と共に、常時の拘束となってしまう、そして、場合によっては身体機能の低下とともに高齢者の死期を早める結果にもつながりかねない。老人保健施設におけるリスクとしては、一般の医療機関と比べ医療事故が少ない反面、ケアに伴う事故や送迎時・在宅訪問時に生じる事故、抑制に伴う事故など施設の特質よりリスクもある。一般の医療機関でリスクと考えられている内容 医療事故 医療過誤 ヒヤリ・ハット事例であり、老人保健施設におけるリスクの内容については、現在全老健管理運営委員会リスクマネジメント部会で検討中である。
問題	事故防止対策の重要項目と課題を述べよ
解答	重要項目：1.事故防止に関する委員会の設置2.事故防止マニュアルの作成3.事故事例の分析評価4.マニュアルの定期的な見直し 課題：施設自体と施設に所属する全職員が事故防止の重要性を認識し、組織全体で防止体制の確立を図る事
問題	事故防止対策規定の項目述べよ
解答	1. 事故防止の為に施設内体制2. 事故防止対策委員会の設置について3. 事故、ヒヤリ・ハット(ニアミス)事例の報告体制について4. 事故発生時の対応について5. その他事故の防止に関する事項
問題	身体拘束による「悪循環」を述べよ
解答	痴呆があり、体力も弱っている高齢者を拘束すれば、ますます体力は衰え、痴呆が進む。その結果、せん妄や転倒等の二次的・三次的障害が生じ、そのためにさらに拘束を必要とする状況が生み出されるのである。

第6分野	介護技術
解説	介護技術とは障害や高齢のために日常生活を送るに何らかの援助が必要となった人に対して、出来ない事を補う、あるいはかわって行う為の技術である。介護福祉士または介護従事者が行う介護技術では、利用者の安全、安楽を保証し、事故や障害ならびに健康の悪化を防ぎ、その人にとって残っている能力を最大限に引き出し、そして持っている能力を出来る限り向上させる為に知と技を一つの行為として、必要に応じて用いられるように実習・訓練する事が求められる。利用者にとって望ましいこととは何かを常に追求し、介護の知識と技術の水準を持ち、専門性を確立していく事が求められる。介護従事者は現実には照らし過ぎて自分がやっていることを合理化してしまうことのないようにする。時間がないからしかたない、人手が少ない、などは認められない。どんな場合も利用者の利益になる立場に立って介護の質を追及する事が大切である。
例題	介護職員で責任者となる者の業務内容を答えよ
解答	1、介護職員を統括し、適切なサービス指導と教育を行う 2、看護、介護の人間関係に配慮し、チームワークの基盤を作る 3、利用者個々のADL状況及び全利用者の介護ニーズを把握し、介護計画を指導する。 4、ADL、グループワークなどの記録を点検・管理する。
例題	残存機能を生かしたケアを行う際、身体的状態を把握する為の観察方法を答えなさい。
解答	それまでの状態と今起こっている事を比較する事で、変化を明確に知る事が重要になる。その場合、先入観を持った観察は禁物であり、常に目の前の状態をありのままに観察する。
例題	家族に対する介護指導の仕方について注意事項を答えなさい。
解答	1、日常生活、受診の対応、投薬、家族の身体的、精神的状態、コミュニケーションなどの必要事項を選ぶ。 2、リハビリで習得した事は毎日やるよう指導する。 3、福祉サービスの必要性と可能性があれば、その受け方をアドバイスする。
例題	レクリエーション活動を進める場合の留意点を5つ答えよ
解答	1、利用者のADL状態を考慮し、ニーズに基づいた活動を行う。 2、目的を設定し、規模と内容を明らかにする。 3、可能な限り自発性を尊重する。 4、利用者の中からリーダーを選任する。 5、反省会を開いて職員や利用者の評価を行う。

第7分野	リハビリ
解説	日常生活動作(ADL)とは、私たちが日常行っている基本動作(寝返る、起きあがる、座る、立ち上がる、歩くもしくは車椅子を操作するなど)、食事動作、整容動作(手や顔を洗う、歯を磨く、整髪する、爪を切るなど)、更衣動作、トイレ動作、入浴動作およびそれらに付随する動作などを言います。健康である人々は、日常的な種々動作を何も考えず、無意識に近い状態で行っているが、体に麻痺があったり、関節の動きが十分でなかったり、痛みのために思うような動きができなかったり、等様々な原因で、日常的に行っていた動作が困難になってきます。 ・関節拘縮の原因は、関節疾患(外傷や退行変性疾患、炎症性疾患、感染性疾患など)により発生する場合と、関節以外の疾患(骨折や神経麻痺、筋肉疾患など)により発生する場合と、ギブス療法や手術療法などの医療行為により発生場合があります。訓練は自動的運動法と他動的運動法とに分かれます。自動的運動法とは自力で行う、いわゆるストレッチングを言います。他動的運動法とは介助者が行う訓練法で拘縮が強い症例や麻痺を伴った症例、筋力が弱いために自動的運動法が困難な症例に行われます。原則的には自力による自動的運動法が望ましいと考えられています。訓練方法は、まず各種の温熱療法にて関節の痛みを和らげてのち、痛くない範囲で、反動をつけず、ゆっくりと行います。全ての関節の運動(伸展や屈曲、外転、内転、外旋、内旋、外反、内反など)で行い、最大の関節可動域(最もよく動く位置)で20秒間ストレッチします。5回をワンセットとし一日3セット行うように指導します。 ・レクリエーションリハビリの指導には、身体的・精神的活動能力の改善が、生活能力として発揮されるためには、日々のケアの場面で、『本人の持っている動作能力を引き出す介助方法』が実践されなければならない為、自立支援を目指したリハビリを効果的に進めるためにも、リハビリ専門員と看護・介護職員とが、協力して行うことが大切です。また、訓練の実施の仕方はリハビリを行う人の身体機能・精神機能・社会機能によって変わってきます。又、訓練実施する際は、相手の意志がとても重要であり、実施する時間も、その人に合わせた訓練時間の設定行い次の日まで、疲れが残らないようにします。
例題	リハビリの方法には様々あるが、具体的にどのようなものがあるか3つ答えなさい。
解答	1、個別訓練 2、グループ訓練 3、趣味・レクリエーション(集団)訓練
例題	生活動作機能訓練とは、何か簡単に説明しなさい。
解答	障害を持ちながら動作訓練、動作方法の工夫、機具・自助具(不自由な動作を補助する簡単な道具)などの利用、動作環境の整備・改善などを行う。また、訓練そのものをとおして精神・心理的障害に対して治療を行う。
例題	老人保健施設におけるリハビリ・ケアにおいて主要な課題について4つ答えなさい。
解答	1、日常生活における活動性そのものを高める工夫を意識的・積極的に行う。 2、基本的動作、起立・移乗動作などの確立をする。 3、排泄・入浴・更衣動作などADLの自立を目指す。 4、痴呆症状の緩和
例題	痴呆性高齢者のリハビリテーションの方法が大きく3つあるが何か答えよ。
解答	1、介護 2、セラピー・ティックレクリエーション 3、環境的アプローチ
例題	関節可動域訓練とは何か答えなさい。
解答	関節可動域訓練(ROM)とは関節拘縮(関節が固まって動きが悪くなった状態)を改善する治療法です。

第8分野	居宅サービス
解説	医学的管理サービスの機能として、機能訓練は、廃用症候群の予防と改善、基本動作能力、日常生活動作の維持・改善の為行われる。次に訪問看護についてだが、訪問看護の提供は訪問看護ステーション、医療機関に限られる。また、提供時間によって介護報酬が異なり、利用者負担も異なってくる。主治医の指示によって提供が開始され、密接な連携が求められる。次に訪問介護であるが、訪問介護は、ホームヘルプサービスであり、居宅を訪問して、入浴、排泄、食事などの身体介護、掃除、洗濯、調理などの家事援助など日常生活上の世話を行うサービスである。訪問介護サービスは、居宅サービス計画書及び、訪問介護計画に沿って提供されなければならない。また、1時間以上のサービスについては、30分増すごとに介護報酬が加算される。・訪問介護の提供は、介護福祉士、厚生大臣が定める者に限られる。訪問入浴とは、居宅要介護者等について、看護、介護職員が居宅を訪問して、浴槽を提供して身体の清潔保持、心身機能の維持を図る入浴援助サービスである。また、介護保険では、居宅サービスとして位置づけられている。訪問入浴サービスは、居宅サービス計画書に沿って提供されなければならない。また、設備、器具などの安全性と清潔保持に留意しなければならない。訪問入浴の提供は、看護職員、介護職員が行うものである。しかし、主治医の意見を確認した上で介護職員のみで提供してもよい。地域リハビリテーションとは、障害を持つ人々や老人が、住み慣れたところで地域住民と共に安心した生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活に関わるあらゆる人々がリハビリテーションの立場から行う活動の全てをいう。その活動は、障害者や老人のニーズに対し、身近で素早く、包括的、継続的、体系的に対応しうるものでなければならない。短期入所介護とは、利用者の心身の状況、家族の疾病、冠婚葬祭、出張や身体的・精神的負担などの理由で一時的に居宅での日常生活が困難な利用者に短期入所してもらい、その人の能力に応じた自立生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話、機能訓練を行うサービスである。短期入所介護は、居宅サービスの一つに位置づけられている。家族の身体的・精神的介護負担の軽減を図る事も目的としている。サービス提供に際して入所前、退所後のサービスとの継続を図る。短期入所介護計画の作成は、チームによるカンファレンスが基本である。 短期入所介護は、従来の福祉施設で行われていたショーとステイの事を言う。福祉用具貸与とは、利用者の心身状況、環境などを踏まえて、車椅子、特殊寝台、手すり、スロープ、歩行器、歩行補助杖など、厚生労働大臣が定める自立支援を目的とする福祉用具の貸与を行うサービスである。福祉用具貸与は、利用者の心身状況や換気用を十分に踏まえて行う。用具の清潔、安全性と正常な機能の保持には十分に留意しなければならない。貸与にあたっては使用方法や使用上の留意点なども説明する。使用状況を確認し、必要な場合は使用方法の指導、修理もおこなう。福祉用具貸与は、介護保険では、居宅サービスとして位置づけられている。通所介護とは、日帰り介護サービス(デイサービスセンター)等で、要介護状態となった場合でも、可能な限り居宅で、その有する能力に応じた自立生活を営むことができるよう、入浴や食事など必要な日常生活上の世話、機能訓練を行うサービスである。通所介護は、利用者の社会的孤立感の解消と心身機能の維持、利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減もはかる。提供主体・提供時間により、介護報酬が異なり、利用者負担も違う。居宅サービス計画書、通所介護計画書に基づいて提供される必要がある。
例題	訪問入浴介護とは何か答えよ
解答	居宅要介護者等について、看護、介護職員が居宅を訪問して、浴槽を提供して身体の清潔保持、心身機能の維持を図る入浴援助サービスである。また、介護保険では、居宅サービスとして位置づけられている。
例題	地域リハビリテーションとは何か。
解答	障害を持つ人々や老人が、住み慣れたところで地域住民と共に安心した生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活に関わるあらゆる人々がリハビリテーションの立場から行う活動の全てをいう。